

和坂小学校（明石市和坂2）の3年生59人が、明石公園や校内の桜の世話を担う「桜守プロジェクト」に挑戦した。樹木医らから樹勢を回復させる方法を学び、身近にある木々

和坂小

を通して自然保護について考えた。明石公園パークギャラリーでは、活動を記録したパネル展を開催している。

（川崎恵莉子）

桜の世話で自然保護学ぶ

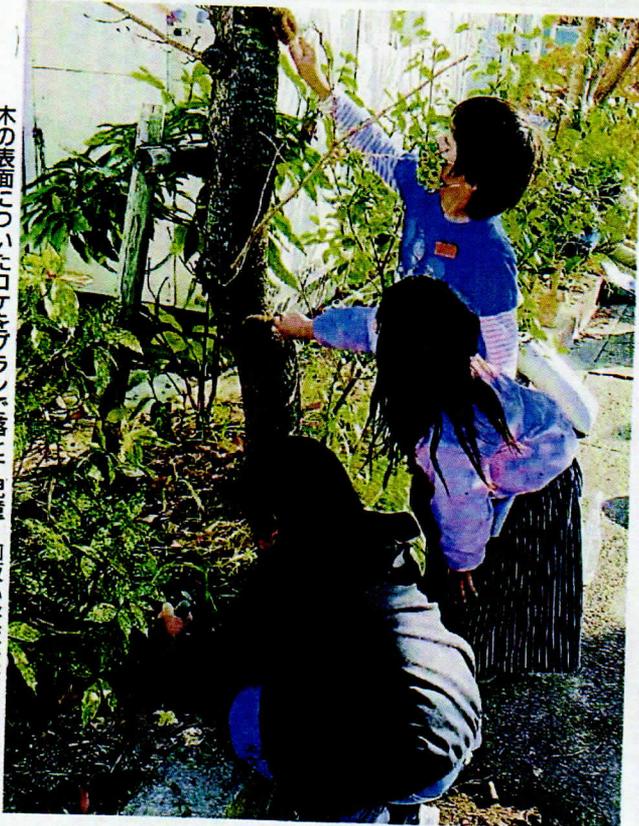
3年生59人 校内や明石公園で挑戦

年間を通して行う環境体 験学習の一環。担当の河合 健次教諭(左)が明石公園の 桜守の活動を知ったことを きっかけに、2020年度 から始まった。

明石公園には約1400本の桜があるが、樹勢が衰える木が増え、樹木医やボランティアが定期的に調査や枝切りを行っている。児童たちは昨秋から明石公園に通い、土の中に竹筒を埋める「割り竹工法」など、木に空気を栄養を届ける方法などを学んできた。

校内にはかつて桜が30本あったが、枝が落ちて腐葉土を作る堆肥ヤードも新しく完成し、長期間寝かせてから使うという。3年生の宮崎優希菜さん(9)は「ソメイヨシノの寿命は60年といわれているけど、桜守の活動で延ばすことができるのかな」と話した。

活動記録パネル展も 公園内ギャラリー



木の表面についたコケをブラシで落とす児童＝和坂小学校(提供)



①校内に新しく作った堆肥ヤード＝和坂小学校(提供)



②木に空気を栄養を届けるため土の中に竹を埋める＝和坂小学校(提供)



桜守の活動をまとめたパネル展＝明石公園パークギャラリー

パネル展は30日まで。明石公園や校内での活動をま 4時まで。午前9時午後4時半(最終日は同)まで。